

周船寺遺跡7

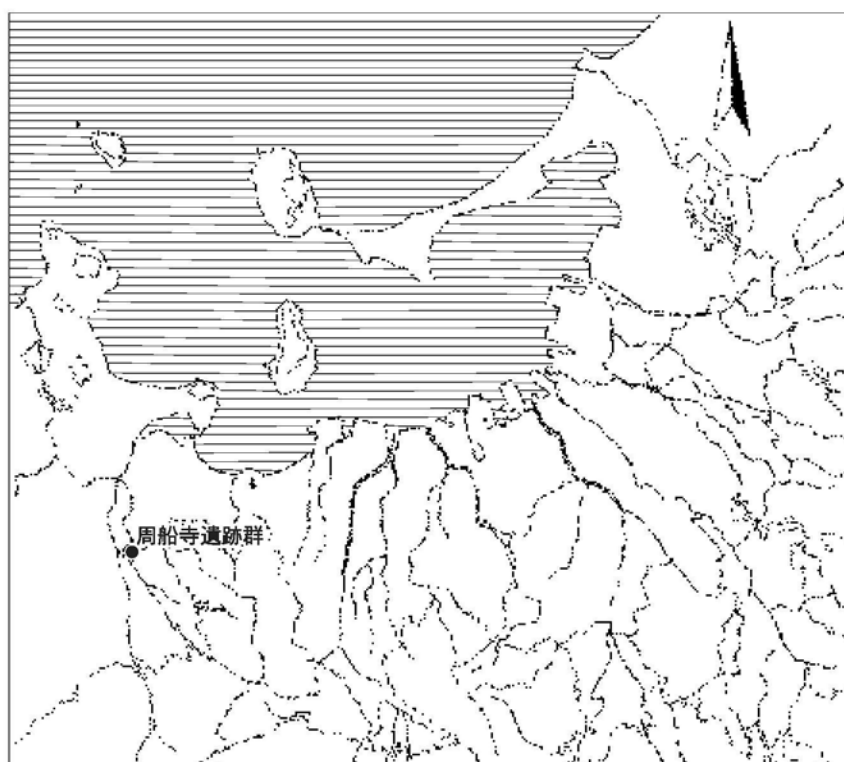
—周船寺遺跡群第17次調査—

2006

福岡市教育委員会

周船寺遺跡7

—周船寺遺跡群第17次調査—



遺跡番号 SSJ-17
調査番号 0442

2006

福岡市教育委員会

序

福岡市は玄界灘に面し、古代より大陸・半島との交流が絶え間なく行われてきました。糸島地域は「魏志倭人伝」にその名がみられる伊都国が存在した地域とされ、弥生時代の大規模な集落遺跡が多数みられます。近年の著しい都市化による開発により失われるこれらの文化財を後世に伝えるのは、本市教育委員会にとっての重要な責務であります。

本書は、個人住宅建築に伴い調査を実施した周船寺遺跡群第17次調査の内容について報告するものです。今回の調査では弥生時代頃の時期と思われる掘立柱建物を検出するとともに、多数の縄文土器・石器が出土しました。これらは古代の糸島地域の歴史を解明する上で重要な資料となるものです。今後、本書が文化財保護に対する理解と認識を深める一助になるとともに、学術研究の資料として活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査から本書の作成に至るまで多くのご協力を賜りました末松一実様をはじめとする関係者の方々に対し、心から謝意を表します。

平成18年3月31日

福岡市教育委員会
教育長 植木 とみ子

例 言

1. 本書は福岡市教育委員会が個人住宅建築に伴い、福岡市西区大字飯氏968-1・970-2ほか2筆において実施した発掘調査である周船寺遺跡群第17次調査の報告書である。
2. 本書で報告する調査の細目は以下の通りである。

調査番号	遺跡略号	調査面積	調査期間
0442	SSJ-17	306.8㎡	2004.8.4～2004.9.3

3. 本書に掲載した遺構実測図は阿部泰之が作成した。
4. 本書に掲載した遺物実測図は阿部が作成した。
5. 本書に掲載した挿図の製図は阿部が作成した。
6. 本書に掲載した写真は、阿部が撮影した。
7. 本書で用いた方位はすべて磁北で、真北より6° 40′ 西偏する。
8. 遺構の呼称は掘立柱建物をSB、ピットをSPと略称する。
9. 本書に関わる記録・遺物等の資料は福岡市埋蔵文化財センターに収蔵する予定である。
10. 本書の執筆・編集は阿部が行った。

本文目次

第1章	はじめに	1
	1. 調査に至る経過	1
	2. 調査組織	1
第2章	調査の記録	4
	1. 位置と環境	4
	2. 調査概要	4
	3. 遺構と遺物	4
	①掘立柱建物 (SB)	4
	②その他の出土遺物	6
	③小結	6

挿図目次

Fig. 1	周船寺遺跡群と周辺の遺跡 (1/25,000)	2
Fig. 2	調査区位置図 (1/1,000)	3
Fig. 3	調査区全体図 (1/100)	4
Fig. 4	調査区東壁土層断面模式図 (1/40)	4
Fig. 5	SB01実測図 (1/40)	5
Fig. 6	調査区内出土石器実測図 (1/3・1/2)	6
Fig. 7	調査区内出土石鏃実測図 (1/1)	6

図版目次

- PL. 1
 - 1. 調査区全景（北より）
 - 2. SB01（北より）
 - 3. SB01-P1土層断面（北より）
- PL. 2
 - 1. 遺構検出面下層土層断面（北より）
 - 2. 作業風景（北より）
 - 3. 調査地より南方を望む

第1章 はじめに

1. 調査に至る経過

2004（平成16）年5月10日付で末松一実氏より本市教育委員会埋蔵文化財課（以下、埋文課）宛に西区大字飯氏968-1・970-2ほか2筆、前原市大字高田53-1（面積：2148㎡）における集合住宅建築に伴う埋蔵文化財事前審査願が提出された。これを受けて埋文課は申請地が周知の埋蔵文化財包蔵地である周船寺遺跡群に含まれていることを確認し、当該地で平成16年6月3日に試掘調査を実施した。この試掘調査においてピット・溝・土壌などの遺構が検出された。この成果を元に両者で協議を行ったところ、遺構面が浅く、建築工事によって遺構の破壊を免れないため、建物部分について本調査を実施することとした。その後、委託契約を締結し、2004年8月4日から発掘調査、翌2005年度に資料整理・調査報告書作成を行うこととした。

2. 調査組織

調査委託：末松一実

調査主体：福岡市教育委員会文化財部埋蔵文化財課

調査総括：埋蔵文化財課長 山崎純男（前任） 山口讓治（現任）

同課調査第1係長 田中壽夫（前任） 山崎龍雄（現任）

調査庶務：文化財整備課 後藤泰子

事前審査：埋蔵文化財課事前審査係長 濱石哲也

同係主任文化財主事 吉留秀敏

同係文化財主事 本田浩二郎（前任） 松浦一之介（現任）

調査担当：同課調査第1係 阿部泰之

調査作業：石川君子 田原忠昭 真田弘二 神原堅 野崎賢治 森下初美 西野光子

整理作業：窪田慧 黨早苗 松田順子

なお、発掘調査から報告書作成に至るまで末松一実様をはじめとして関係者の皆様には多大なご協力とご理解を賜りました。ここに記して感謝の意を表します。

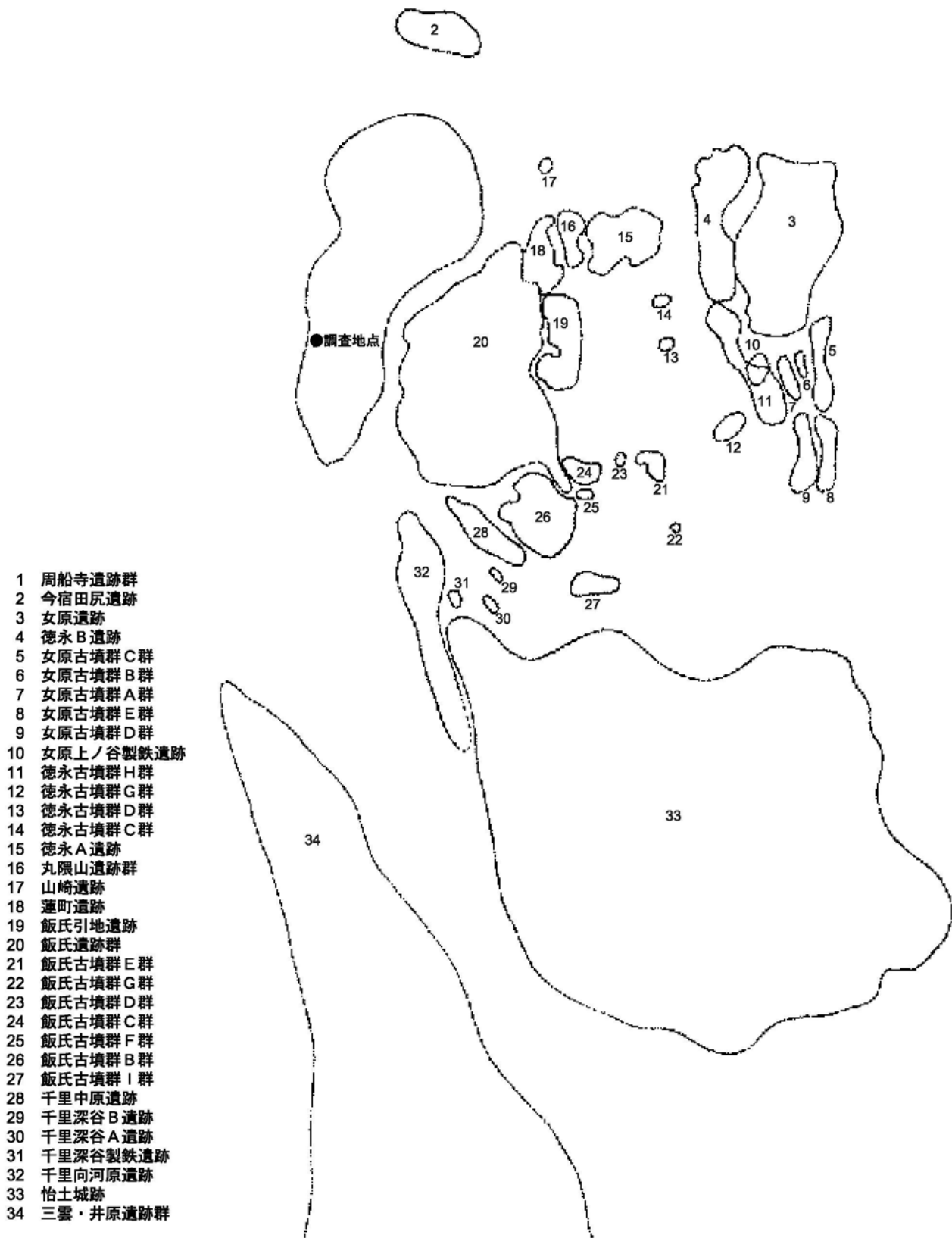


Fig. 1 周船寺遺跡群と周辺の遺跡 (1/25,000)

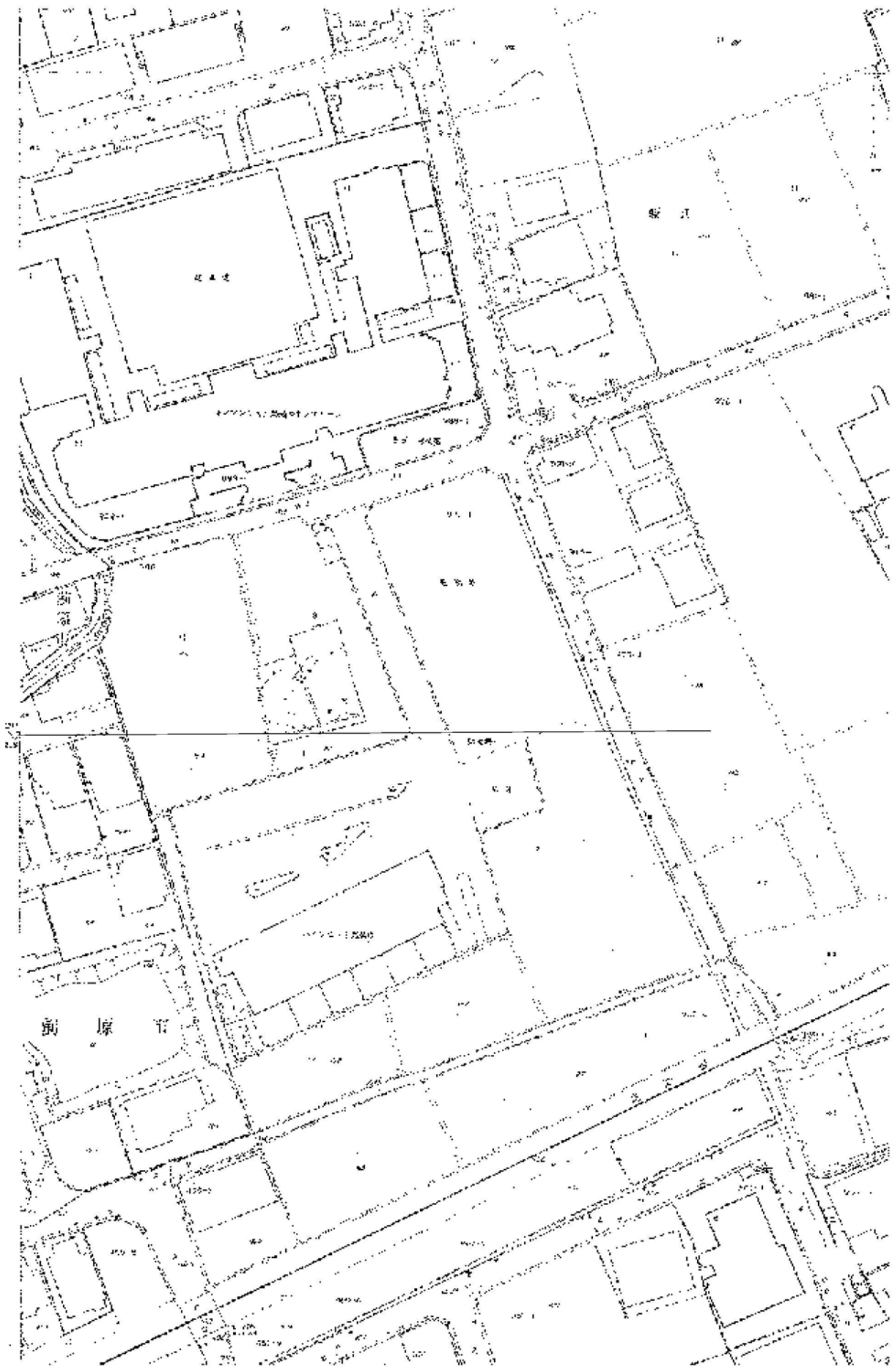


Fig. 2 調査区位置図 (1/1,000)

第2章 調査の記録

1. 位置と環境

現在の行政区では福岡市西区の西半分が含まれる糸島平野は、高祖山・飯場山・井原山など標高400～700mを測る山系に南を限られ、北は柑子岳・可也山・灘山などの山系で構成される糸島半島に面する平野である。糸島半島の東西の入り江である加布里湾・今津湾の間は古来湿地であったが、近世に入り大規模な干拓が実施され、現在では広大な水田地帯となっている。この糸島低湿地帯の北方には、前述の南を限る山系から派生する扇状地が形成され、遺跡は主にこの扇状地上に広がっている。周船寺遺跡群はこの糸島扇状地の末端部である糸島平野の東端部に位置する。

2. 調査概要

本調査区は、糸島平野の東端部、周船寺川によって形成された沖積微高地上に位置する。この微高地上には縄文時代後期から弥生時代にかけての遺跡が分布し、今回の17次調査においても当該期の遺構・遺物が検出された。

今回の調査で検出された遺構は、掘立柱建物1棟・ピット多数である。大きく削平を受けており遺構の残りは悪い。建物は1×2間の東西棟で、遺物はほとんど出土しなかった。また、遺構検出面

を想定して調査を行ったが、なかった。

であり、量も少ない。

が検出された例はほとんど川によって周囲の微高地がしている可能性が高い。

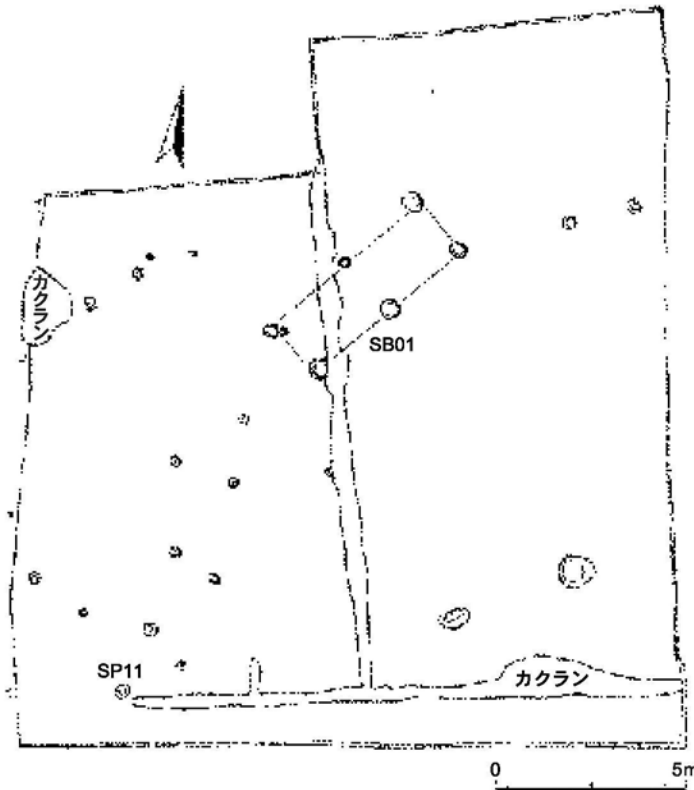


Fig. 3 調査区全体図 (1/100)

3. 遺構と遺物

①掘立柱建物 (SB)

1棟検出した。調査区全体にいえることだが削平が大きく、これ以外に顕著な遺構は確認できなかった。この掘立柱建物が単独で存在していたとは考えにくく、削平・浸食で失われた遺構も多いと思われる。

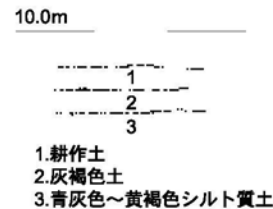
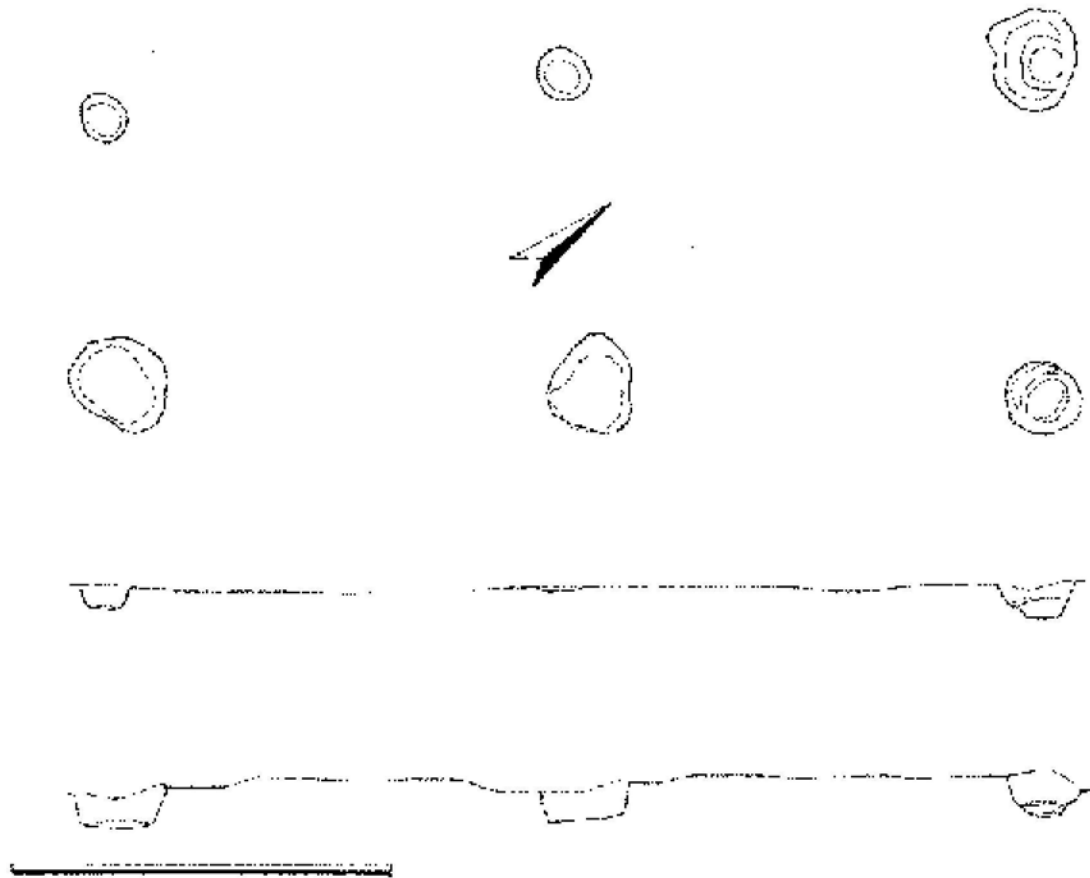


Fig. 4 調査区東壁土層断面模式図 (1/40)



SB01 (Fig.5・PL.1-2)

調査区北部中央付近で検出した。1間×2間の掘立柱建物である。戦後構築された暗渠排水の溝に切られるが、ほぼ全体形を追える。柱穴を結んだ場合、北側の柱間に比べ南側の柱間が約0.4m短く、完全な長方形プランにはならない。南西隅の柱穴が南東隅の柱穴に接近しているためである。そのため西側の柱筋は南部分がやや内側に入る。長軸を北東-南西方向にとる建物で、長軸は磁北から37°東に偏する。

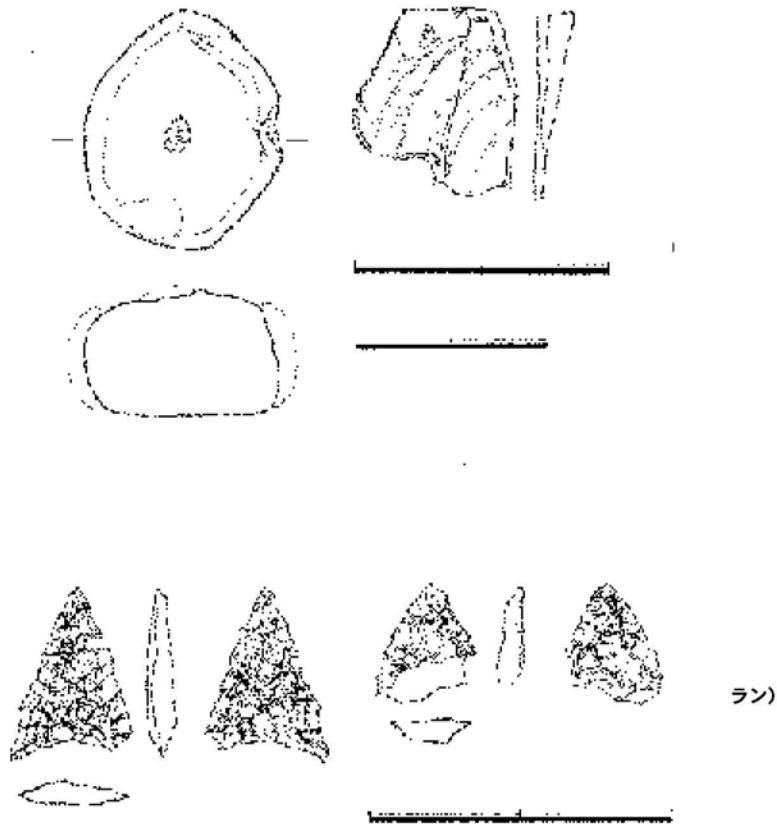
柱穴の間隔は、柱穴の中心を結んだ場合、長軸方向で2.4~2.6m、短軸方向で1.8m（北側）、1.4m（南側）を測る。柱痕跡は、柱穴P1においてのみ検出された（PL.1-3）。径約13cmを測り、柱穴の底面には届いていない。断面観察では浅い皿状にわずかに痕跡が観察できるにすぎなかった。

柱穴は、平面プランは不整円形~楕円形を呈し、方形に見えるものはない。削平のため柱穴は総じて浅く、とくに西側の柱筋では、北端の1基をのぞきほかの柱穴より径が小さく、深さも4cm~14cmと浅い。西に向かって地山が高くなっていたためとも考えられるが、現場では確認できなかった。北側の柱穴2基は底面にテラスを有する。P1は西側に、その西側の柱穴は底面を3方から囲むように設けられている。

埋土は黒褐色~暗褐色シルト質土で、地山の灰褐色~明褐色シルト質土とは明らかに異なるものである。

出土遺物

土器片がわずかに出土しているが、器種・時期等は細片のため不明である。



②その他の遺物

遺構検出面、遺物包含層、ピット、攪乱から出土した遺物の中から、主なものをFig.6・7に図示し、以下に説明する。

(Fig.6) 1は、磨石である。花崗岩質の円礫を用い、縁辺部に擦痕が観察される。上面中央部に打痕と思われる剥離痕があり、叩石としても使用されていた可能性も考えられる。重量530gを測る。2は、使用剥片である。一部Pebble面が残るサヌカイトの剥片を用い、左側の縁辺部に微少な剥離が観察され、下部にNotchと思われる円形の調整痕が観察される。下部は欠損し全長は不明だが、最大幅4.3cm最大厚1.0cmを測る。

(Fig.7) 3・4は、打製石鏃である。いずれも黒曜石製で、3はSP11、4は攪乱04出土。3は片方の脚部を欠損する三角鏃で、残存長2.3cm、残存幅1.7cm、最大厚0.3cmを測る。4は先端部の破片で、残存長1.6cm、残存幅1.3cm、最大厚0.3cmを測る。

③小結

今回の調査で検出された遺構は、掘立柱建物1棟・ピット多数である。大きく削平を受けており遺構の残りは悪い。建物は1×2間の東西棟で、遺物はほとんど出土しなかった。また、遺構検出面からは少数ながら縄文土器・黒曜石が出土した。そのため下層の存在を想定して調査を行ったが、調査区西端にうすい包含層が検出された以外、遺構は検出できなかった。

遺物は、遺構検出面から弥生土器・縄文土器が出土した。いずれも細片であり、量も少ない。

今回の調査では、掘立柱建物・ピットを検出した。全体に削平が激しく遺構の残りは悪い。試掘で遺構が検出された例は調査地周辺ではほとんど無く、河川によって周囲の微高地が浸食されている可能性が高い。

圖 版

P L A T E S



1. 調査区全景（北より）



2. SB01（北より）



3. SB01-P1土層断面（北より）

PL. 2



1. 遺構検出面下層土層断面（北より）



2. 作業風景（北より）



3. 調査地より南方を望む

報告書抄録

ふりがな	すせんじいせき				
書名	周船寺遺跡 7				
副書名	周船寺遺跡群第17次調査				
巻次	7				
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書				
シリーズ番号	883				
編著者名	阿部 泰之				
編集機関	福岡市教育委員会				
所在地	福岡市中央区天神1-8-1				
発行年月日	2006年3月31日				
調査期間	2004年8月4日～2004年9月3日				
調査面積	306.8㎡				
調査原因	集合住宅建築				
ふりがな	ふりがな	コード			
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経
すせんじ 周船寺遺跡群	福岡県福岡市 西区大字飯氏 968-1・970-2ほか	40135		33° 34' 6"	130° 14' 15"
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
周船寺遺跡群	集落+ 散布地	弥生/ 縄文	弥生/ 掘立柱建物	弥生土器+ 縄文土器+ 磨石	

周船寺遺跡 7

福岡市埋蔵文化財調査報告書第883集

平成18年3月31日

発行 福岡市教育委員会
福岡市中央区天神1丁目8番1号

印刷 国崎美峰堂
福岡市東区箱崎一丁目20-5